Erwin / Levi
Story of The Survey Cops

ADULT ONLY

嘆きの箱庭

59100

Senken-Toshi

Story of The Survey Corps

Erwin / Levi

嘆きの箱庭

この本は【アリア版悔いなき選択】後if設定過去編です

東門外で爆発！

事故じゃないテロだ！

分隊長がまきこまれた！

荷馬車が突然爆発したらしい
塀が崩れてるまわりこんで救出を
火は!?
大丈夫だ消し止めた!
気をつけろがれきが散乱してる
エルヴィン…っ

怪我はっ!?

——リヴァイ

！

格好つかないところをみられたな

しばらく紫アザで痛むだろうけど骨は大丈夫だ

ガラッ

おまえがいなくなりでもしたら…っ

おれは……

ピキ

…目に見えてるのはかすり傷ばかりだよ

おまえのほうがひどい靴はどうした

部屋でブーツぬいでてクツは途中で…

夢中でつい

くすっ

まったく

そっちは大丈夫か

エルヴィン！

はっ？

うわっ

おい

はい分隊長

悪いが先に戻る

心配してくれたのは嬉しいが二次被害は増やしてくれるなよ

被害者が俺をかついでどうすんだっ

おろ…せっ！

あいたた

私を心配するならたのむからじっとしてろ

ガラスの破片が刺さってたら一大事だよ

看てもらうまではだめだ

……

市民に怪我は無いな

まきこまれたのは他にいるか

野次馬は下がらせろ

憲兵に連絡を

ただし奴らが来る前に

われわれで現場検証をすませろ

手口の照合をする必要があるすぐに報告書の作成を——

だから――無理して抱える必要なんてなかったんだ

俺は見た目よりずっと頑丈だっていったろ…

リヴァイ…

兵士としてやっていくなら怪我は日常だが甘くみてはいけない

まあ――少々くらってしまったが

このくらいで音をあげていては調査兵はつとまらないよ

いいからじっとしてろ…

――…っていうかあんまり動揺しないんだな

おまえもどいつもこいつも

なんか手慣れてる感じだった

よくあることなのか

よく、は、ないがままあるね

調査兵団に対して否定的な者は多いからな

調査兵団は人類のために壁外を切り拓こうって組織だろ

なのにこれじゃ後ろから撃たれたようなもんだ…

おまえだって
イカレた組織だと
思ってたんじゃないか

！
そっ
地下の人間は
クソミソに言うときゃ
勝ちってなだけで…

命を賭けてる
尊さは
ちゃんとみれば…
伝わるはずだ

尊さ、ね

確かにわれわれは
人類の為に戦っている

その広報に努め
理解を得る努力は
もちろん
惜しむべきじゃない

だがそういう話じゃなく
実際的なことを言うなら

誇られるくらい
大なり小なり
イカレてないと

この場には
いられない

そういう
言い方はよせ…

そんなわけねぇだろ

まるで
責められるのも
やむなしみたいに
聞こえる

怒ってるのかい
……われわれのために？

うれしいよ

でも
どうしたんだ

そこまで
知り尽くしては
いないけれど
「おまえらしくない」

リヴァイ、その必要は無い
！

お茶ありがとう
ゆっくり休め

ポン

カチャ

……リヴァイ

おまえ

飲み物になにかまぜたか？

痛み止め
兼
自白剤

……
一応、理由を先に聞こうか

は

おまえが悪い…
そんなふうに気づかわれてばかりじゃ
ホントのとこは聞けねえじゃねえか

私の本音が――おまえは聞きたいのか
そうか……

どう考えても判らねえんだ
俺はおまえを殺そうとした男だぞ
うん
だが互いにケジメはついたはずだ
私はもうおまえから命の危険を感じてはいない
——そいつは破格の待遇だ
だが俺が
じ…
その手を切り落としていたらどうした…
立体機動はトリガーが引けなけりゃおしまいだろうが…
それでもおまえは
なああのときあの壁外で俺はかっとなって
本気でブレードで斬りつけた
——殺すつもりでだ
ほ
は
かまわずおまえを口説いただろうね
私の手なんて安いものだよ
そんなの問題じゃない
……
ちっとはヒトよりマシな巨人殺しの技術は確かにおまえの役には立てるだろう
だがそんなもの十人か二十人か兵の束で代替可能だ
それについては私には別の意見があるよ
だが…それで？

おとしまえは
つけなきゃならねぇ

俺はここで働く
なんでもやる
動く囮でも餌でも
かまわねえと思ってる

……

おまえなら有効に
活用するだろって
安心してた

だが
エルヴィン――

おまえのその怪我…
俺が斬りつけた手のせいで
受け身がとれなかった
んじゃねえのか

体の片側だけハデに
ぶつけやがって

誤魔化すな
強情者め！

熟練の立体機動兵の体幹と
咄嗟の反応速度が
ソレを許すわけねえだろ

…ふっとばされて咄嗟に
体勢をとれなかった
だけだよ
恥ずかしい話だが

くそ…薬
きいてんのか？

どうして
責めない――!?

ダン

それどころか
さっきだって
てめえより傷の軽い
俺を抱えあげやがったり

その理由は
言ったはずだ

責める理由が
ないからだ

かわりに…手助けしたり
することもゆるさねえ

わけわかんねえ

エルヴィン
正直に
言ってくれ

おまえこそ
俺を――
どう見てやがる

リヴァイ
私にはおまえが
必要だ

――……

リヴァイ、
私は正直に
こたえているよ

長くねえ
付き合いでも
見てりゃわかる…

おまえはたいした男だ

こんな目に合っても
大丈夫だと
いいきるほど
調査兵団のために
カラダ張る覚悟
もっていて

その頭脳と腕前と
行動力…怖え程の
能力ぜんぶ
「人類」に捧げんのを
いとわねぇ

学も力も崇高な目的も
ある男が

なぜ

ゴロツキのひとごろしを
許し引き入れ
気を遣ってまで

ココにおいている?

おまえの想いに見合うほどのなにが俺にある

俺はどうやったらおまえの想いに報えるんだ…っ？

ミ チッ

リヴァイ……！

こんなに嬉しいと思ったことはない

…そんなふうに思ってもらえるとは思わなかった！

こんなにまっすぐに尽くしてもらえるなんて——

やめろ

尽くしてるか——俺が？

おまえといるとますますわからねぇ

リヴァイ、それは罪悪感かい？

そして怖がっているんだね

ひきくらべて私を完璧な男にしたてあげて

おまえは
自分を責めてるんだ
ずっと

壁外でのことを
背負ったままで

自分がさもなにも
できなかったように
思い込んで

無力感に苦しんでる

おまえは
本当に強くて
…強いから

身体のように
心も頑丈だと錯覚してるんだ

きゅ

…ぬかすな
俺はそんな弱くねえ
人の死なんかいくらでも
見てきた

手だって
とっくに血で汚れてる
いまさらそんな——

リヴァイ

対象の死と
家族の死は、違う

私に盛ったこのヤクは
そもそも
なんで用意してた

自分自身が
苦痛から…逃れたかった
んじゃないのか

つっ

——責めてるんじゃない
勘違いするな

ずるっ

これはうちのヤクでは
なさそうだが

兵士が薬物を使うことを
わが調査兵団は
規定内で認めている
それほど過酷だからだ

…知ってるだろう
医局で見なかったか
その為の部屋もある

…俺は
そういう——
逃げはしない

そうだよ
おまえは逃げない

だから私に盛るぶんがあった
——それが
証明してるじゃないか

おまえは
逃げずにちゃんと問いただして
戦って、

私に答えを求めてる

そして

そういう――
心の凛々しさを
私は頼みにしてる

そういうおまえが
欲しいんだよ

――……

――どうだ…リヴァイ
これは本心だよ

ははは…
ヤク、め
言わなくていいこと
まで言いそうだ

リヴァイ
来てくれ

…すごいどきどきしてるだろ

…私にだって
抱えたまま
どうしようもない
記憶や感情がある

だがそれを
目の前に置いたままでは
冷静な決断を下せない

だから

だから
不用意に蓋を開けてくれるな
リヴァイ
……それでも
私は…俺は——
俺の中にある箱庭を壊してくれる純粋な力が
俺の枠外からきた人間が、
おれのようなひとでなしではない人間が、
くそっ
欲しいんだと思う
いわせるな…くそ
リヴァイめ

俺は、そんな人間じゃねえ
おまえが思うような、
リヴァイ
それを決めるのは俺だ
おまえは俺にとって必要だ
これは本心だ

でなければ、この命、やすやすと賭けたりはしない
リヴァイ

はあっ
ずるはあっ
痛いのかエルヴィン
うるさいリヴァイ…

リヴァイ一度だけ言うぞ
ここから逃げるなら今だ

…俺はきっとひどいことをする
もう我慢できそうにない…おまえは…男色家じゃないだろうが
ゼクッ
はあ
はあ

ヤク盛った段階でんなもん覚悟済みだバカ
そ…うか
そうだ
クッ

はっ
はぁ
ひくっ
ひくっ
はっ
あ
ぐぷ
ちゅっ
ン…む
ぐちゅ
くちゅ
ゴクッ

チルッ
つふ
つあ、…ふ
エ…る
ふ
息、
でき、ね…っ
っ…っ
ひと呼吸ま――
は
ン
ン、ンン

エ、エル…っ
べろん
ぷちゅ
ぷちゅ
わ、おい待…ッ
や、やっぱり……そこまでは――っ
ふ
いきなりすぎ、る…っ
！
――…ひっ

ンンン
ぎゅう
っ
じゅぽっ
じゅぽっ
ずぶん
っ
はっ
っ…っ…っ
じゅっ
じゅる
っ…は
ヌト…
ガクン
はあっ
はあっ
はあっ
ゾクッ
ぞくんっ
ぞくんっ
じゅっ
じゅぽっ
だめだはなれろ
だめ…

どろ…

つあ…くそ——ぶっかけ

ちまったろう…が

はっ

だめだっ…て聞けよ…クソ……

ぐいっ

はぁ

はぁ

……わるくない

ば…ばか

どきっ

せっぱつまってんのは

てめえのモンだろうに…

俺を優先させやがって——

ぶるんっ

はっ

はなせ

出さなきゃ苦しいまんまだろっ！

めきっ

なら一緒に

はっ

ぞくぞくんっ

ン、んっう……

はあっ

はあっ

ぷちっ

っ……ふ

はあっ

はあっ

ずりゅっ

ぐっちゅ

ぐっぢゅ

ぐっぢゅ

もっと早く

たりない

はあ

はあ

……ッ

強く

はあ

くちっ

ぐちっ

ぐちゅっ

ぐぷ

ひゃるるっ
はあっ
はあっ
っ…っっ!!
ごくり
っ…いいいま
なにか
うん
ヤクの丸薬を

!?
てめ……使わないって
持っていないとは言ってない
せっかくだ
楽しもう
はっ
……っ
ここにいれる
いいね
——すきにしろ…

くちゅ
くちゅ
どっ
どくっ
傷つけずに愛したい
ぐりっ
ずっ
ずっ
ぞくんっ
ふるふる
ぎゅう
もうすこしひらいて
い…っ
む、ムリ……っっ
う――

ほら…入る……
あ…
ガクガク
あ…っ
——い
いちいち
ん——くぅ……っ
いう、な——ひっ
う、あ、あ……あ……
はいった…
ここに
たまらないよ
い——っ
てえ——っ
は——っ
なんか——
グラグラ…する

はっ
はあっ
はあっ
ぅ
ぁあ
…っ
ぐぁっ
ぐぁっ
ぅ…ぁ―
やべ……

突け
もっと
もっとだ
はぁ
はぁっ
俺も――
たまん…ねえ
はぁ
はぁ
はぁ
はぁ
ばんっ
ばんっ
ばんっ
ばんっ
かくん
かくん
ゆさ
ゆさ
あっあっあっ
あっあっ
あっあっ

はー

はー

…正直にいっていいか

……おう

最高だった

はー

はあ

はあ

もう一回いいかい？

Miniature garden in my Mind

ああ…
気持ちのいい朝だね
うっ……
頭…いってぇ……
……おい…
どうなってる
こいつは…
ちっとも
ぬけてねぇ……
ガーガーガー

粗悪品じゃねぇか…
そうなのか
そうなのかじゃねぇ これじゃトリップできてたときが余計懐かしくなって常習性が高くなる…
信頼できるところから仕入れてんのかいやその先の卸か
粗悪品つかまされてるんじゃ――！
からめてで調査兵団の足をひっぱる
――納得できる節もある…
ぽすっ
敵が多い組織だな
うう 頭つかったら喉かわいた
水かまってろ
きし…
いい…そんくらい自分でいく
ばたっ
リヴァイ!?
大丈夫か!?
ちっ――
つたくほんとワリィ薬だな
今度から俺に相談して仕入れやがれクソが…

ホタッ
いってえ
すこしは片付けろよ
つまづいただろうが…
いや足腰が
立たないのは
昨晩のせいだよ
薬のせいだとはいえ
やりすぎた
反省している…
いいよ
そんなの
盛ったのは俺だ…
ン――?
こういう特殊な配合の
爆薬を好んで使う
組織を知ってる
もしかして
――昨日のテロ
俺を狙ったもんか?

——おまえを
取り返そうったって
そうはいかない
たとえどんな脅しに出ようと
戦う覚悟だ
だから
おまえに知らせず
内々に処理していた
俺は
決して
おまえを手放す気はない
きゅ

そいつは——
やつらには わかりはしねぇ
むくり
本当は俺が ちゃんと ナシつけなきゃな
それに 押し通せば 余計反発を招く そういう論理だあそこは
…リヴァイ
わかってるよ エルヴィン
迷惑をかけるのも もう遠慮したり しねえ
……力を貸してくれ エルヴィン
——しんじまった あいつらは 出たがってたけど
俺たちの 居場所だった …箱庭を 壊すようで
足踏みしてた
でも

すでに想いはここにあるなら
壊してでも進む
そういう生き方を俺は選ぶ

AoT Fanficbook by

Senken-Toshi